

自然に還る

ししけ通信

第2号

2004年8月18日発行
編集発行：ゼロ企画
〒104-0061
東京都中央区銀座4-9-5
銀昭ビル3F
TEL 03-3549-1521
FAX 03-3549-1522
HPアドレス
<http://www.mutsuu.com/zero/>

7月31日大阪で宮本喰悟氏の講演会が開かれました。今回はその時のお話の内容を抜粋してお届けします。自然の法則の中の生命の法則について一人でも多くの方々に理解して頂ければと思います。

大きな玉ねぎと小さな玉ねぎ

ここに大きな玉ねぎと小さな玉ねぎをそれぞれ真っ二つに切って断面を写した写真があります。大きいほうは大きいと言ってても一般的にスーパーで売られているくらい大きな玉ねぎで、小さいほうは牛の目玉くらいの大きさです。よく見ていただくと小さいほうの玉ねぎの切り口はフラッシュの光が反射して写っていますね。小さな玉ねぎの切り口からは粘液というか、玉ねぎの体液というか、そういうものが噴き出しているからなんです。なぜこんなことがあるかというのと、私たちも傷口が治ろうとする

ときは黄汁というか体液が出ますよね。白血球やら血小板などと精しくは知りませんが、玉ねぎからもそのようなものが噴き出していると考えたわけです。そこで、二つに切った玉ねぎをまたくつつけてみました。そしたら小さいほうはピタッとくつついて、剥がそうとしても剥がれないんですね。大きいほうはといいますと剥がすどころか、くつつけてもくつつきもせずにポタッと落ちてしまふんです。そんな体験から、小さいほうには傷口を塞ぐ蘇生能力があるということに気づかされたんです。それともうひとつ別の違いを言いますと、玉ねぎというものは木の年輪のように輪が幾重にも重なっています。小さいほうはその中心つまり芯がおおむね真ん中にあるんですね。大きなものはいくつも切りましたけれども、すべて中心からそれで偏ったところに芯があるんです。大きなほう

は変則というか、汚い言葉ですがいわば奇形的に成長していったといえます。

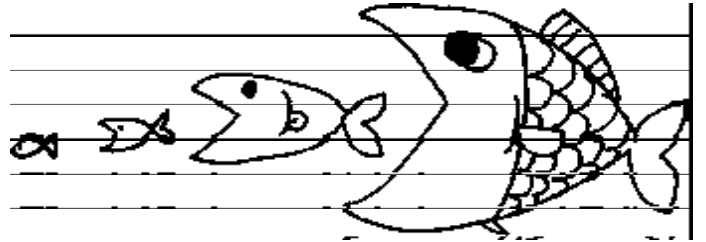
今お話しさせていただいている玉ねぎの話は価値観の話です。大きなではないんだ、量ではないんだ、質なんだという話です。けれど、今の時代の人たちは大きい小さいかに奔走しているんです。僕は職業柄、農業試験場にも関わることがあるのですが、農業試験場の開発・研究の趣旨目的というのは、たとえば一反の田んぼで8俵採れていたものならその一反の田んぼの中で極端に言えば30俵取れる方法を開発するというのが目的なんです。先程の玉ねぎで言えば、これの3倍ほどの大きさの玉ねぎを採ろうというのを目的にして研究しているんです。大きくとか多くとか、量を追求する彼らの根底には「欲」なのですが、それをごまかすために彼らはこういう理論を持ち出してきます。今、世の中には多くの人たちがいる、だから食糧不足の問題がおこってくる。一人で多くの人を救うためには多く大きく収穫する技術の開発が必要とされる、というテーマを軸に話をするわけです。僕は勘違いを恐

れずに言いますと、死ぬものは死んでもらわないかと考えています。死ぬべきものは死ぬのが法則やと。もし「死なない薬」ができたとしたら、おそらく大勢の人はその薬を買いに走るだろうけれども、僕はそんなもの買いに走る必要はないという話を今しているんです。死んだものが生き返ってくるような薬とか話とかに乗っていくのがおかしいよと。今の時代の価値観は長生きすることに価値があると思われている節があります。例えば100歳まで生きると価値があった、56歳で死んだら価値が無いとかいうような価値観を先入観として植え付けられているような、そういう時代だと言ってるわけです。でも、たとえば50歳で死のうが60歳まで生きようが22歳で死のうが、本当は「如何に生きるか」というところに価値があるんだよということなんです。簡単に言ったら、100歳まで生きたからって人に迷惑かけてたら何の価値も無いということなんです。だから「如何に生きるか」というところに価値観を持つとうじゃないかと。「如何に生きるか」というところに価値観をおいて考えられるようになってくると

人生が楽しくなってきましたわ。逆に「いかに長生きしようか」という気持ちだと苦しいですよ。いろんなものを探さなならんわね(笑)。僕は「生き方」に話を持って行っているものですから、病気をしないような生き方を、健康な生き方を、と言ってますから、農業試験場のようなところの人たちとは話が一致するところが無いわけです。彼らとはすり合わせもなにもないわけです。

〈土の食物連鎖〉

では、量とか大きさを求めるのではなくて、内容を求める食糧生産をするためにはどうやったらいいのかということになりますね。そのためにはまずその「食料とはなんぞや」ということを知ることが必要です。一言に食料って言いますが、けれども、たとえば米なら米が何に基づいて大きくなって米になっているかということ。その米を食べて人間はまた人間としての形を形作っている、そういう法則。カエルは虫を食べて、ヘビはそのカエルを食べて、トビはまたヘビを食べてという一連の流れというか法則を「食物連鎖」と言うわけ



です。一つの部分、食べられる、食べるという関係のところだけ見たら天敵とか、弱肉強食とか、狭い見方になるわけですが、全体を見ると連鎖になっているわけです。その連鎖という自然の法則を根幹として認識しないと「食料とはなんぞや」ということが見えてこないということ。ただ、この食物連鎖というだけのもこの根源法則の解明には至っていないんです。連鎖と言うからには、何かを引き継いでバトンタッチしながらグルグル回っているということですね。この引き継がれるものは何なのか、その本質を知らないといけないわけです。もちろんその本質とは命とか生命ということ。今度はその「命とはなんぞや」ということです。今お話させていただいてるのは宗教や道徳や観念論の話ではなく、実際の食糧生産のやり

方についてですからね。先程申しました「内容を求める食糧生産」をするためのやり方についてのお話ですから、食物連鎖の本質が命であることがわかって「やり方」は見えてこない。何かを改善するための方策、具体策、やりかた、方法を得るためには、もっと具体的な「もの」「こと」で知る必要があります。この場合は命というものをもっと具体的なもので知ることです。それを知るにはこの食物連鎖は何から始まっているかを知ることです。何から始まっているでしょう。それは、この連鎖を環状線や山手線に例えるとわかりやすいです。環状線ですから始発駅はイコール終着駅ですね。ということは始発駅がわからないときは終着駅を調べれば始発駅がわかるということ。そして根幹がわかってきます。終着駅はみなさんわかりますね。トンボが死んだらどうなるの、魚が死んだらどうなるの、米が死んだらどうなるの、ど

うなるの、どつなるの、命の終わりはどうなるの、というところを観ていったら…。それは全部「土」に戻っていくことがわかります。そうすると、終着駅が「土」であるということは、始発駅は「土」であるということがわかります。終着駅は始発駅、微生物も始発駅の土から生まれ、植物も土から生まれます。こういう風に化けの皮を剥いて行くと、ここにたとえばトウモロコシというものがあって、トウモロコシに見えていても、実はそれは土のバケモノということがわかってきます。トウモロコシをたべる私たちもまた土のバケモノということがわかってくるわけです。ライオンはライオンにみえているけれども、それも土のバケモノの一つ、連鎖の途中、連鎖の過程であるということがわかります。そうするとこの連鎖を、正常な循環が運行できるようにしようとしたらどうしたらいいか。それは、この始発駅の「土」を「適正」なものにしたらいんです。そうするとすべてが良くなっていくということ。よく、「世の中を直そう」とか「社会を良くしよう」という人がいますけれども、世の中を直すためにはこの最初の始発駅である「土」を適正なものバランスのよいもの、調和のとれたものにすればいいんだなということがこれでわかったわけです。「土の食物連鎖」は生命

の法則なんです。

〈初乳の法則〉

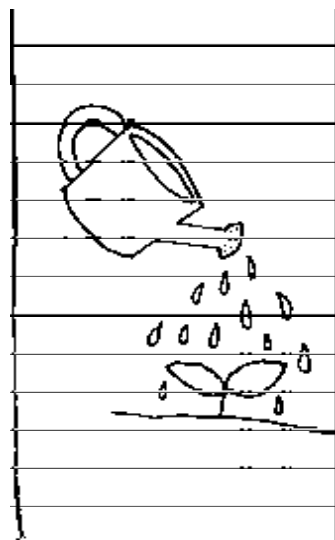
生命の法則にはもう一つ重要な法則があります。さきほどの土の食物連鎖と同じく、米でも魚でも動物でも人間でも共通の法則です。その法則とは、生まれてすぐに体内に取り込むものの良し悪しによつてその後の生育が一生にわたつて大きく左右されるといふことです。米で言うなら発芽発根するときに吸う水、哺乳動物で言うなら一番最初のお乳がそれにあたります。哺乳動物の場合、それを初乳と言います。昔から初乳というものには母乳というもののなかでも別格扱いされてきたんです。米も私たち人間も、植物も動物も、その生命体が本来の能力を発揮して生きていけるかどうか、この初乳にかかっているわけです。それはな



んでか。このこともあんまり教えたくないのですけれども、今日は特別に…(笑)。

まず最初、オギャーと生まれる。その状態は純粹無垢です。何にも毒されていない。外部の影響を受けていない。言わば無菌状態です。その無菌の中に、米や植物で言えば発芽発根のときバイ菌だらけの水が吸収される。人間で言えばバイ菌だらけのお乳が与えられる。このバイ菌が体の中に入るといふことが初乳なんです。バイ菌が入ってくるによつて、生命が持っている本能というか素質というものが、それを撥ね退けようとか、乗り越えようとか、そのバイ菌と戦おうということによつて、目覚めるんです。生命というものはその内側にもすごい能力が埋め込まれているんですけれども、その能力はそういう機会(チャンス)がなかったら目覚めないんです。寝ていたら眠ったまんまで過ぎてしまふ。これを目覚めさせるのがバイ菌だらけの初乳なんです。もうおわかりでしょう。粉ミルクはどうですか。バイ菌だらけじゃないですね。

ところが今の時代はそういうた方



向と逆の方向へ来ていませんか？たとえば、現代の農業ではカボチャやら米の苗作りの時には、焼土(しょうど)殺菌された育苗培養土に種を蒔いているんです。ところが本当は先程言ったように、なんにもしないのがいいんです。たとえば、ある人が水に入つて溺れかけたとします。誰も助けってくれなかつたら、なんにもしてくれなかつたら「必死」になるでしょ。この「必死」というのを目覚めさせるのが初乳なんです。必死になったときにプログラムされた本能や素質が目覚めるんです。これを「初乳の法則」と名付けたんです。だからうちの土はバイ菌だらけです。言うときますけど、入っているバイ菌の種類は多ければ多いほどいいんですよ。結核の菌からペストの菌まで入つてなければいかなので

す。ジェンナーでしたかね。ご存知の方もおられるとおもいますが、種痘法といつて、牛に菌を移植して、そこから出てくる膿を植えたたら天然痘という病気に對する免疫ができますね。そんなのは綺麗な話じゃなくて、きたない話です。こんなことを見てみても、法則や原理というものは意外ときたなくいとこにあるものです。そしてまた法則というものは単純なところにあるんです。科学的な学幼稚園や小学生の子供たちが勉強するような、子供たちが知つていけるようなところに法則というものはあるんです。

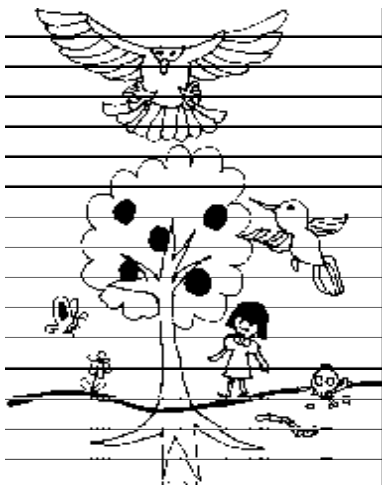
だからみなさん、これからは「無菌」だとか「消毒済み」だとかいう商品が売られていたら、買うのをやめといたほうがよろしいです。「バイ菌だらけ」といつて売られていたら、「ああこれはいいわね」と(笑)。ただしバイ菌だらけがよいかんのですよ。なんぼバイ菌がよろしと言つたかて、ペストがドロンと入つていようなもん食べたら保証しませんからね(笑)。そして適正量の毒やバイ菌の入つたものといふのは、わざわざ人工的に

作らなくても、母乳の中にはちゃんとその環境に応じたように作られて出てくるんです。ですからこの頃は母乳の中に昔にはなかった六価クロムが何ピコグラム検出されたとか、何ppm入ってますとか言われますけど、なんにも恐がる必要はないんですよ。それはこれからの世の中を生きて行くために必要だから母乳の中に必然的に適正量が混ざってきているんです。それらが最初の母乳の中に入っていると、赤ちゃんの生命は「これは毒や」ということを知るわけです。そしたら、それを小便に出そうか、排便しようか、場合によっては口からオエーッと吐き出そうか、という働きも目覚めるわけです。毒を毒として見分ける力、対応する力、排出する力、乗り越えて行く力が、「生命力」と言われるものなんです。

初乳の法則というものがわかったら、種を蒔くときの土がどんなものがいいかということもわかりましたね。そして適正な初乳の土で育苗だけしっかりやったら、あとは“三つ子の魂百まで”です。あとは放っておいてもその苗自身が生命力を發揮して自分自身で生き

ていきます。あとからなんやらのホルモン剤やら、どこやらの酵素やら、なんやらの抗生物質やら、なんやらの薬やら肥料やらなんかやらなくてももしっかり生きていきます。そんなことしなくても一番最初を大事に、一番最初をしっかりとしておいたらあとは放っておいても生命力の高いものができる。このことを昔のことわざで「苗八分作」といいます。作物の育成は、苗づくりが8割のウエイト・重要度を占めているという意味です。よい作物ができるかどうかは苗作りにかかっているということなんです。そして先程の食物連鎖を思い出してくださいね。その生命力の高いものを食べて私たちも高い生命力を引き継ぐという連鎖になってます。その生命力の高い作物というもの、先ほどの玉ねぎの写真のように小さいものになります。小さいといいますが小さいほうが本来の大きさで、大きいほうは現代の技術で膨らましただけです。技術というと聞こえはいいですが、早く言えばごまかしのトリックです。格好は大きいだけで、要は水で膨らませただけです。生命力はどこちらが高いか。皆さんはもうお解

かりですね。その反対に膨らんだところを喜んでるのが、現代の社会です。現代の社会は舌切り雀に出てくる欲ボケばあさんですね。でも、これからは質に気づいた食糧生産をやって行かなければいかんということなんです。また、収穫までいろんな資材、化学肥料やら農薬やらホルモン剤やら使って、労力と時間と金を使いつづけなければならぬ農業と、僕みたいに最初だけしっかりしておいてあとは放っておきましょうというやり方とは、どちらが効率いいか。どちらが損なのか得なのかということも考えてみてくださいね。そして私たち消費者がこのこと気づいて生命力の高いものを求めるようになる、自然に農業も変わっていき、社会の意識も変わって行き、調和とバランスの取れた世の中がやってくるようになるはずなんです。



編集後記（発刊にあたって）

自然の法則って難しいものではなく、誰もが知っているようなことなんです。でもあまりにも簡単だから忘れていたこともあるようです。また知っていたとしても生活に活用できていないんでしょうね。では今日からは舌切り雀のおじいさんにあやかって、お宝どっさりにもまれた生活を目指したいとおもいます。(hana)